

(3) 小川地区

※静岡県第4次地震被害想定において現在の科学的知見に基づき推計したのですが、自然災害を完全に把握することは困難です。個々の地点の推計結果にとらわれず、地域全体の傾向を示したものとして、報告を受けとめてください。

小川地区の課題のまとめ
 ・地区内では、想定されるハザード(津波・揺れ・液状化・火災)と高齢化率・木造建物の割合・道路幅などを考慮すると、小川新町が最も脆弱である。
 ・地区別では、火災による全壊建物数・全壊建物割合が最も多い地区であり、津波による全壊建物数は3番目に多い地区である。
 ・沿岸漁業を主体とし市民や観光客に親しまれる整備が進められている焼津漁港小川地区が浸水域に立地するため、利用者及び漁港関連施設が被災する可能性がある。

地域特性にみる課題

- 人的被害**
- ① 津波による避難困難者の発生:小川新町、県道静岡焼津線以東の小川で、避難困難者が発生すると想定される。
 - ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶:昭和57年以降に建設された建物割合が市の平均より低く、特に小川新町は低く、部分的に震度7が想定されており、人的被害が懸念される。
 - ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶:西小川、東小川は部分的に液状化危険度ランク大が分布しており、人的被害が懸念される。
 - ④ 延焼火災による人的被害・避難経路の途絶:小川新町は住宅が密集しており、地震発生後の延焼火災による人的被害や避難経路の途絶が懸念される。
 - ⑤ 狭隘な避難経路:小川新町において狭隘な道路が多く、海岸部からの避難が困難となる可能性がある。
 - ⑥ 高い高齢化率:高齢化率は、約26%(市平均23.5%)である。特に小川新町で高齢化率が高く、迅速な避難が困難となる可能性がある。
 - ⑦ 浸水域に立地する観光施設:焼津漁港小川地区外港には卸売市場が立地し、観光客も訪れるエリアとなっている。観光客の避難誘導を検討する必要がある。
- 建物・交通施設被害**
- ⑧ 津波による建物倒壊:東部に浸水域が分布しており、津波による全壊建物数は、市内で3番目に多い約80棟と想定される。
 - ⑨ 地震動による建物倒壊:西小川、東小川の一部で震度7の揺れが想定されているほか、全域で震度6強以上となる。揺れによる建物全壊数は、約980棟と想定される。
 - ⑩ 液状化による建物倒壊:西小川、東小川の一部に液状化危険度ランク大が分布しており、数は少ないながらも、液状化によって全壊する建物も想定されている。
 - ⑪ 火災による建物倒壊:火災による全壊建物数は、市内で最も多い約460棟であると想定される。
- 産業・経済被害**
- ⑫ 浸水域に立地する漁港関連施設:焼津漁港小川地区内港は小型漁船や遊漁船が係留されているほか、造船所において常に大型漁船の点検・整備が行われている。漁港関連施設・設備の被害が懸念される。

課題図



(4) 港地区

※静岡県第4次地震被害想定において、現在の科学的知見に基づき推計したのですが、自然災害を完全に把握することは困難です。個々の地点の推計結果にとらわれず、地域全体の傾向を示したものとして、報告を受けとめてください。

港地区の課題のまとめ
 ・地区内では、想定されるハザード(津波・揺れ・液状化・火災)と木造建物の割合・道路幅などを考慮すると、石津浜地区が最も脆弱である。
 ・地区別では、木造建物割合が最も高い地区であり、揺れによる全壊建物割合が高い地区である。

地域特性にみる課題

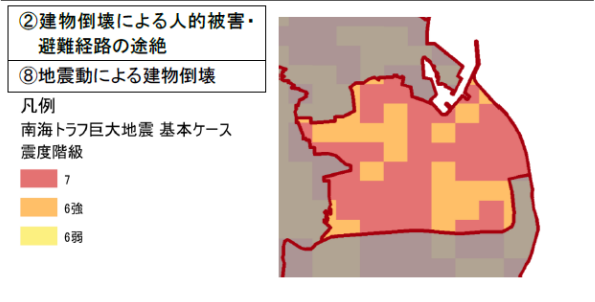
- 人的被害**
- ① 津波による避難困難者の発生: 主要地方道焼津榛原線以東の石津、石津向町、石津中町、石津港町、田尻北の北東部で避難困難者が発生すると想定される。
 - ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶: 昭和57年以降に建設された建物割合が市の平均より低く、特に石津で低い。想定される震度7の揺れの発生時には、建物倒壊による人的被害が懸念される。
 - ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶: 石津浜地区、田尻北の東部に液状化危険度ランク大が分布しており、人的被害が懸念される。
 - ④ 延焼火災による人的被害・避難経路の途絶: 石津(海岸側)・田尻北(海岸側)は住宅が密集しており、地震発生後の延焼火災による人的被害や避難経路の途絶が懸念される。
 - ⑤ 狭隘な避難経路: 石津(海岸)において狭隘な道路が多く、海岸部からの避難が困難となる可能性がある。
 - ⑥ 高い高齢化率: 高齢化率は約23%(市平均23.5%)であるが、石津港町、石津向町では市の平均を超えている。迅速な避難が困難となる可能性がある。

- 建物・交通施設被害**
- ⑦ 津波による建物倒壊: 石津、石津向町、石津中町、石津港町、田尻北の東部に浸水域が分布しており、津波による全壊建物数は約40棟と想定される。
 - ⑧ 地震動による建物倒壊: 全域で震度6強以上の揺れが想定されている。揺れによる建物全壊数は、約1100棟と想定される。
 - ⑨ 液状化による建物倒壊: 石津港町、田尻北の東部に液状化危険度ランク大が分布しており、数は少ないながらも、液状化によって全壊する建物も想定されている。
 - ⑩ 火災による建物倒壊: 火災による全壊建物数は、約140棟と想定される。

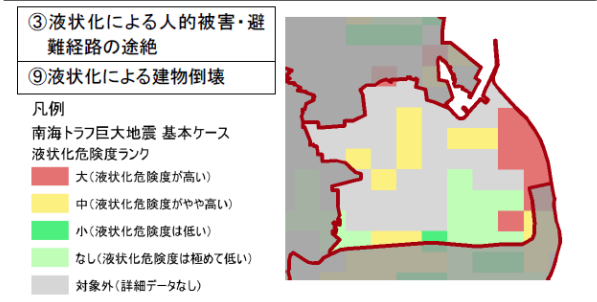
- 産業・経済被害**
- ⑪ 浸水域に立地する商工業施設: 浸水域である石津の東部に工業施設、石津中町に商業施設が立地しており、経済的被害が懸念される。



震度分布



液状化危険度



(5) 和田地区

※静岡県第4次地震被害想定において、現在の科学的知見に基づき推計したのですが、自然災害を完全に把握することは困難です。個々の地点の推計結果にとらわれず、地域全体の傾向を示したものととして、報告を受けとめてください。

和田地区の課題のまとめ

- ・地区内では、想定されるハザード(津波・揺れ・火災)と高齢化率・木造建物の割合・道路幅などを考慮すると、一色が最も脆弱である。
- ・田尻南東部、惣右衛門東部の浸水域内に市の主要産業である水産加工業を中心とした工業団地が立地しており、経済的被害が懸念される。

地域特性にみる課題

人的被害

- ① 津波による避難困難者の発生: 田尻南東部、惣右衛門東部、一色で避難困難者が発生すると想定される。
- ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶: 昭和57年以降に建設された建物割合が市内で3番目に低い地区であり、特にすみれ台で低い。想定される震度7の揺れの発生時には、建物倒壊による人的被害が懸念される。
- ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶: 田尻の東部に液状化危険度ランク大が分布しており、人的被害が懸念される。
- ④ 狭隘な避難経路: 海岸部において狭隘な道路が多く、海岸部からの避難が困難となる可能性がある。
- ⑤ 高い高齢化率: 高齢化率は約26%(市平均23.5%)であり、特に一色で高い。迅速な避難が困難となる可能性がある。
- ⑥ 浸水域に立地する観光施設: 「ディスカバリーパーク焼津」は通年で観光客が一日当たり約490人来訪する。施設周辺にいる観光客の避難誘導を検討する必要がある。

建物・交通施設被害

- ⑦ 津波による建物倒壊: 田尻南東部、惣右衛門東部、一色に浸水域が分布しており、津波による全壊建物数は約20棟と想定される。
- ⑧ 地震動による建物倒壊: 全域で震度6強以上の揺れが想定されている。揺れによる建物全壊数は、約740棟と想定される。
- ⑨ 液状化による建物倒壊: 田尻の東部に液状化危険度ランク大が分布しており、数は少ないながらも、液状化によって全壊する建物も想定されている。

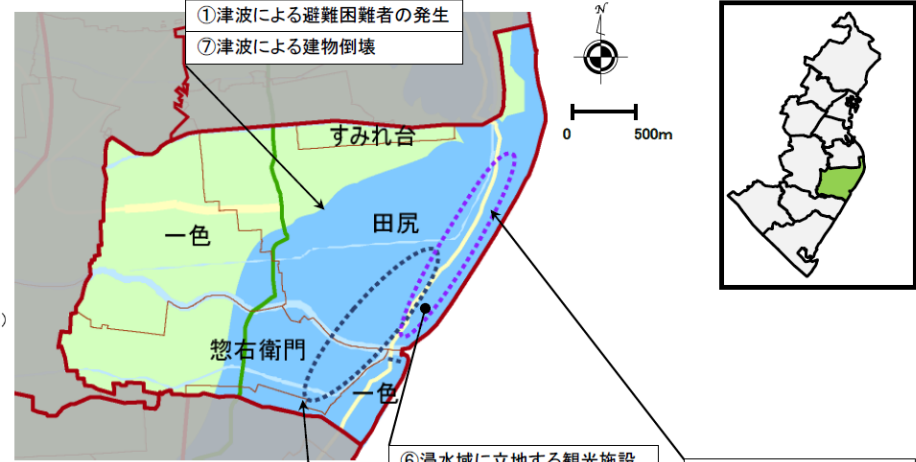
産業・経済被害

- ⑩ 浸水域に立地する工業施設: 田尻南東部、惣右衛門東部の浸水域内に市の主要産業である水産加工業を中心とした工業団地が形成されており、経済的被害が懸念される。

課題図

凡例

- 浸水域に立地する工業施設
- 狭隘な避難経路
- 地区境界
- 鉄道
- 道路種別
- 高速自動車道
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般都道府県道
- 河川
- 1cm以上の津波浸水域(レベル2)



⑩ 浸水域に立地する工業施設



⑥ 浸水域に立地する観光施設



④ 狭隘な避難経路

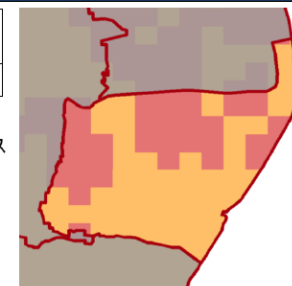


震度分布

- ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶
- ⑧ 地震動による建物倒壊

凡例

- 南海トラフ巨大地震 基本ケース
震度階級
- 7
 - 6強
 - 6弱

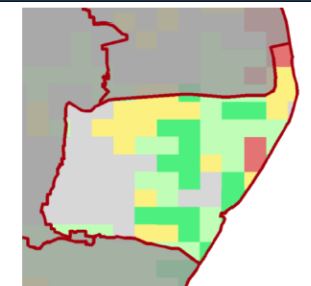


液状化危険度

- ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶
- ⑨ 液状化による建物倒壊

凡例

- 南海トラフ巨大地震 基本ケース
液状化危険度ランク
- 大(液状化危険度が高い)
 - 中(液状化危険度がやや高い)
 - 小(液状化危険度は低い)
 - なし(液状化危険度は極めて低い)
 - 対象外(詳細データなし)



※静岡県第4次地震被害想定において、現在の科学的知見に基づき推計したのですが、自然災害を完全に把握することは困難です。個々の地点の推計結果にとらわれず、地域全体の傾向を示したものとして、報告を受けとめてください。

(6) 大井川東地区

大井川東地区の課題のまとめ

- ・地区内では、想定されるハザード(津波・揺れ・火災)と高齢化率・木造建物の割合・道路幅などを考慮すると、下小杉が最も脆弱である。
- ・下小杉の東部、藤守の東部に工業施設が散在しているため、経済的被害が懸念される。

地域特性にみる課題

人的被害

- ① 津波による避難困難者の発生: 下小杉の東部、藤守の東部で避難困難者が発生すると想定される。
- ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶: 昭和57年以降に建設された建物割合は市の平均より高いが、地区の中では、下小杉で低い。想定される震度6強の揺れの発生時には、建物倒壊による人的被害が懸念される。
- ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶: 上小杉、藤守、宗高に液状化危険度ランク大が分布しており、人的被害が懸念される。
- ④ 狭隘な避難経路: 県道焼津大井川線沿いの藤守の集落、及び下小杉は狭隘な道路が中心となっているため、迅速な避難が困難となる可能性がある。
- ⑤ 高い高齢化率: 高齢化率は約22%(市平均23.5%)であるが、下小杉では高い。迅速な避難が困難となる可能性がある。

建物・交通施設被害

- ⑥ 津波による建物倒壊: 下小杉の東部、藤守の東部に浸水域が分布しており、津波による全壊建物数は約40棟と想定される。
- ⑦ 地震動による建物倒壊: ほぼ全域に震度6強が分布しており、揺れによる建物全壊数は約600棟と想定される。
- ⑧ 液状化による建物倒壊: 上小杉、藤守、宗高に液状化危険度ランク中が分布しており、数は少ないながらも、液状化によって全壊する建物も想定されている。

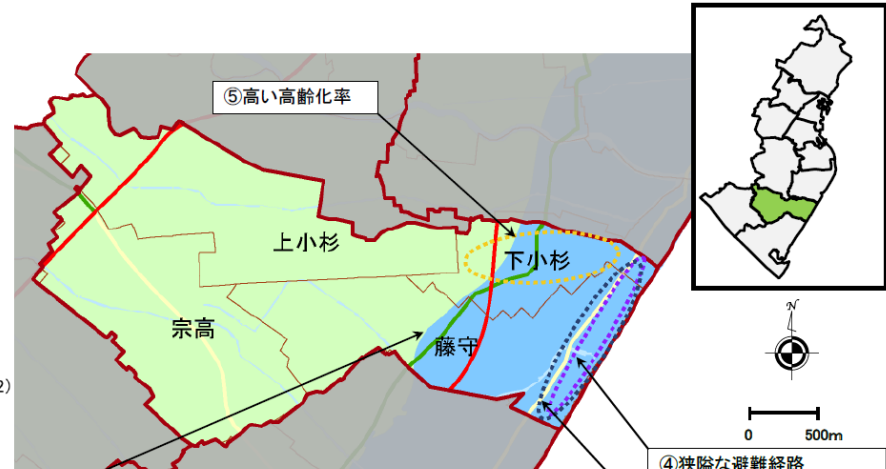
産業・経済被害

- ⑨ 浸水域に立地する工業施設: 浸水域である下小杉の東部、藤守の東部に工業施設が立地しているため、経済的被害が懸念される。

課題図

凡例

- 浸水域に立地する工業施設
- 狭隘な避難経路
- 高い高齢化率
- 地区境界
- 鉄道
- 道路種別
 - 高速自動車道
 - 一般国道
 - 主要地方道
 - 一般都道府県道
- 河川
- 1cm以上の津波浸水域(レベル2)



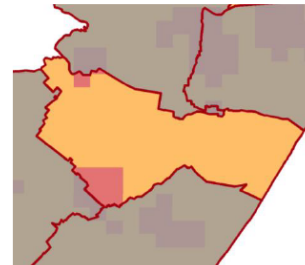
- ① 津波による避難困難者の発生
- ⑥ 津波による建物倒壊



震度分布

- ② 建物倒壊による人的被害・避難経路の途絶
- ⑦ 地震動による建物倒壊

- 凡例
南海トラフ巨大地震 基本ケース
震度階級
- 7
 - 6強
 - 6弱



液状化危険度

- ③ 液状化による人的被害・避難経路の途絶
- ⑧ 液状化による建物倒壊

- 凡例
南海トラフ巨大地震 基本ケース
液状化危険度ランク
- 大(液状化危険度が高い)
 - 中(液状化危険度がやや高い)
 - 小(液状化危険度は低い)
 - なし(液状化危険度は極めて低い)
 - 対象外(詳細データなし)

